

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470900180		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホームあらしま		
所在地	三重県鳥羽市安楽島町字高山1075-29		
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 31 日	評価結果市町提出日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470900180-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 9 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鳥羽湾の広い海や緑など自然に囲まれた環境の中で、窓から眺める空と海との青さは心安らぎ、静かな生活が送れる。
1階がデイサービスになっており、立地条件として地域との交流が図りにくい点をカバー出来る。月1~2回の合同の催しや、自由な行き来が出来て、友人や馴染みの方と交流を深めている。入居者の方に笑顔で毎日を過ごして頂くためには職員自身が笑顔で働いている事が大切であると自覚し、その事を目標に日々のケアに当たっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥羽湾を眼下に望み、自然景観に恵まれ、保養所・宿泊所の多い地域に立地している。デイサービスを併設し利用者との交流が多く、合同イベント・行事でも地域ボランティアの方々との交流もある。運営推進会議では地域からの参加者も多く、意見交換等活発に取り組んでいる。『その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム』の理念を念頭に、職員は利用者本位のケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が見える場所に事業所理念を掲示している。その理念を日々確認して利用者者に接している。	全職員の目につきやすい場所に、利用者の筆で書かれた理念が掲げられている。日常的に利用者が笑顔で明るく穏やかに過ごせるよう、理念を念頭におき支援している。	事業所の理念は、リビングの数ヶ所に掲示され、玄関には全職員の写真掲示があるが、事業所の思いが家族・面会者等に伝わるよう玄関への掲示も期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、様々なボランティアの方々に来ていただく事や買い物等の外出や地域の行事に参加する事で地域の方々や知人の方々と交流している。又、ボランティアや合同行事を通してデイサービス利用者の方々とも交流している。	併設デイサービス利用者は、地元地域の方々なので、日々交流や合同行事参加の機会が多くある。地域への買い物外出、地域行事にも積極的に参加したり、イベントボランティアの来訪や知人の方とも交流が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアやご家族、知人の方など来苑して頂いた方々には運営推進会議等において発信している。又、平成28年度から鳥羽市の「認知症支援部会」にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご家族や利用者、地域の方々に参加して頂き、それぞれの意見や要望、質問等を聞いてサービス向上に活かしている。又、議事録を作成して全職員が共有できるようにしている。	2ヶ月毎に運営推進会議が開催され、地域代表・市・包括職員の参加者も多くみえ、意見・要望、質問も活発に交わされている。地域の支援と理解が得られサービス向上に活かされている。議事録は全職員が共有できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者や包括支援センターの職員も参加して頂き、連絡を密にしている。又、月1回の介護相談員の訪問時にも現状報告などの情報交換を行っている。	月1回の介護相談員訪問には、鳥羽市担当者も同行し、事業所の現状を伝えたり、情報交換している。他市町の認知症カフェ見学を実施し、今後の活動の試みとして推進会議でも報告されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束廃止委員会に参加し、委員会からの情報などを全職員に伝えている。又、ホームではマニュアル等の活用によって拘束しないケアを徹底しており、身体だけでなく言葉の拘束にも配慮した利用者のケアを行っている。	『身体拘束廃止委員会』が法人内にあり、内容・情報は職員全員に伝え、徹底理解を図るようにしている。入居契約時、家族にも詳しく内容や取り組みを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面だけでなく精神面や生活面など、すべての虐待防止について職員が学び、注意を払って利用者のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を使用している利用者はいないが、いつでも支援ができるように職員が制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学や相談員の説明など、十分に話し合いが出来る場を設けて不安や疑問等に応え、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とはコミュニケーションを取る際に、ご家族とは面会時に職員からの声掛けや会話等で意見を頂いている。又、ホームの玄関に意見箱を設けて苦情や不満を聞く機会を持っている。	家族面会時は職員からの声かけ・会話等で、意見・不満等を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。家族から希望があれば管理者と職員が直ぐに対応を考え、早い実行を工夫している。家族からはお礼や感謝の声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の職員会議や何でもノートを活用し、利用者の状態をはじめ、様々な報告や意見を出して話合っている。又、議事録を作成し全職員が確認して、運営者は年1回各職員と面談する機会を設けて職員の意見を聞いている。	事務長・管理者と職員で年1回面談があり、意見や提案の機会が作られている。「何でもノート」の活用により、確認・振り返り・情報共有し、反映にも結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、業績考課シートを使用して各職員の状況等を把握し、働きやすい職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトを調整し、可能な限り法人内外の研修に参加できるようにしている。又、資格試験の受験希望者には研修案内や受講情報を提供し、各職員が協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設や地域等の研修に参加したり、施設部会参加をはじめ、鳥羽市の介護保険サービス事業者連絡会の活動を通して交流を図っている。又、それらの交流によって情報共有した事をサービス・ケアに活かすよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接会話する事で本人の困っている事、不安・希望を理解し、安心できる生活をして頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、困っていることを聞き取り、希望に添える対応が出来るように話し合いの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安を持たない安心して暮らせる生活の支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に会話を基に本人がご家族に話されるような雰囲気作りをして穏やかに過ごして頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人の日常の様子を伝え、家族の一員としての絆を感じてもらいながら生活をして頂き、行事開催等には声掛けし参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや地域の祭りに参加した時や買い物で出会う馴染みの人と会話をして頂き、交流の機会を作っている。又、運営推進会議にも参加して頂いている。	地域のスーパーへの買い物や自宅・墓参り等、馴染みの人・場所への継続支援に努めている。地域のイベントには、利用者の友人・知人も参加され、交流を持って頂ける。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通して利用者同士の関係を把握している。声掛けや誘導によって利用者の周囲に対するフォローアップを行い、一人ひとりが孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた利用者のご家族がボランティアとして訪問して下さい、意見を聞いたりとして交流を図り、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声掛け等を通じて本人の思いや希望の把握に努めている。偏食のある利用者やアレルギーの方の食事内容についても本人の希望を尊重し別メニューでの提供も実践している。	日常的に利用者の声や気付きを受け止め、「何でもノート」に記入し、全職員が共有し本人の思いが実現できるように努めている。偏食・アレルギーを持つ利用者の別メニュー提供実施も、本人希望に添って支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の基本情報や家族、本人から生活環境の話聞き、本人以外に知人の方々からも情報を得て、今までの暮らしに近づけた状態を保てるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定をして健康状態をチェック。1日2回の申し送り報告し健康状態を把握している。月2回医師の往診にて健康管理にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーにより本人ご家族にも担当者会議に出席して頂き、本人の意見を尊重した計画立案を心がけている。又、家族にも説明し居宅サービス計画書にも署名して頂いている。	ケアマネージャーが中心となり、本人・家族・職員の思いや意見を纏め、介護計画を作成している。介護実践記録が日々、細かく連続して記録されており、3ヶ月毎にプラン見直しや検討もされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をカルテに記入するとともに申し送りにて話合いの場を設けている。ケアの気付きや工夫を「何でもノート」等を使って情報を共有しケアの実践結果を見直す際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時、病院受診の付き添いや入退院の送迎に柔軟に対応している。又、夜間の面会、外出、帰宅等にも状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域サービス利用希望は無いが、外出支援を利用して時節の花を見学したり、散歩、ドライブに出かけている。自然にも触れながら生活の中でできる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞く。希望がない場合は同一法人の病院がかかりつけ医となり、常に診療情報等、連携を築いている。月2回の往診を受け、健康管理を行っている。	かかりつけ医希望は入居時、本人家族に確認している。月2回往診、年1回健康診断があり、他科受診や体調不良時は、家族の協力も得られる連携が図られている。壁に往診予定が掲示され、利用者・家族にも案内がゆき届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の体調の変化や観察を行い、変化があれば看護師に報告し、健康な状態を保てるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との連携を図っている。又、相談員が本人家族と話し合いを行い、安心して治療を受け、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行われていないが、勉強会に参加し職員が対応できる知識を取得出来るように取り組んでいる。かかりつけ医と連携を密にし安心して終末期を迎えられるよう支援している。	看取りは原則、行わないと家族に説明しているが、2年前、家族の希望により看取りが行われた。今後は看取りへの知識・情報を共有し、チームで支援できるよう取り組む為に、法人内での勉強会へ全職員が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成して応急手当等は看護師の指導のもと行っている。職員会議を利用し職員間で確認合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年2回の防火・防災訓練を行っている。又、運営推進会議での話し合いを通じて出席者の方にも訓練に参加して頂いて協力体制を築いている。	消防署の協力により年2回の夜間想定、防火防災訓練を実施している。運営推進会議出席者にも協力頂き、地域との連携を呼びかけている。被災時の為に準備として、自家発電2台、非常食3日分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りや何でもノートを利用し、入居者の状態を把握している。職員会議等で利用者に対する対応や言葉がけについて職員同士で話し合い確認している。	利用者への声掛けには十分注意を払い、無理強いないしいケアを心掛けている。利用者のペース、プライバシーを尊重し、笑顔で対応している。一人ひとりの気付きは「何でもノート」に記入し、よく活用されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを尊重する様に努めている。話を聞いたり共感する事で安心してもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れる様1日を通して、レクをしたり歌や体操、食事の手伝い等、個々に出来る事を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、理美容の訪問があり、本人希望にあった散髪等を行っている。出来る人には入浴時の着替えは本人に準備してもらい、衣類は自分で決めてもらうように実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭き等、出来る事はして頂いている。職員と一緒に仕事をし、声かけや介助をしながら穏やかな雰囲気づくりを心掛けている。又、嫌いな食材があれば別メニューで提供している。	庭の菜園で収穫された季節野菜がメニューに取り入れられている。収穫から始まり、下ごしらえや配膳、片付けまで利用者が参加し、楽しい食事生活の雰囲気作りがされている。菜園ノートには苗植え・水やりから記録され、利用者と職員も話題となり楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分補給が出来るよう、リビングにお茶を置いたり、時間を決めて水分補給をして頂いている。夜間は居室にペットボトルを置いてある。食事量も毎食記入して、摂取量が少ないときは栄養ゼリー等やカロリー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいを実践している。夜間は義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている。週1回歯ブラシの消毒も行い自分で出来る方には声掛けを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の必要な方には、チェック表を作り、時間を見ながら定期的に声掛けを行っている。おむつを出来るだけ使用しない方向でトイレでの排泄が出来る様に支援している。	1ユニットでは9人中7人の布下着使用の方があり、排泄の声かけ・自立支援に努力している。又、1ユニットでは、お気に入りトイレの場所を利用の方には、さり気無い誘導での排泄を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や一人一人にあった運動をして頂いている。排便管理表でチェックし便秘の方にはその人に合った便秘薬を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。その日の体調により入浴出来なかった方には足浴や清拭をしたり、後日入浴して頂いている。皮膚疾患のある方には弱酸性のシャンプー等の利用を提供している。	入浴日は週3回であるが、体調不良・外出等の場合には、足浴・清拭で対応している。全介助に近い方も、広くゆったりと安全も配慮、工夫された浴室造りなので、安心して入浴を楽しめるよう支援している。天窓からは外気や光も入り明るい浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きて頂き、機能訓練やレクリエーション、体操等で夜間良く眠れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表があり、いつでも確認できるようになっている。又、症状の変化や薬の服用も含め、カルテに記入し、申し送りで情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事後の食器拭き、片付け、お膳拭き、野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除等出来る事は手伝って頂いている。編み物等趣味のある方は自由な時間を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや近くの公園への散歩、週1回の買い物等、希望に合うように対応している。他にも年1回のお花見会や外食支援の実践を行い、楽しんで頂く機会を提供している。	2F全居室の外側周囲にはベランダがあり、気軽に出て外気に触れたり、軽い散歩が楽しめる。また、鳥羽湾の景色を眺めて季節を感じられ、利用者は日常の楽しみにしている。買物・外食等、地域に出かけ気分転換して頂けるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を所持してもらっている。外出された時などは職員の見守りの中、使用してもらい金銭出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけ、本人に代わり、話をして頂いている。終わった後は内容を確認して、家族様とのやり取りを把握している。手紙の郵送も事務所の協力を得ながら発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の友人で生け花をされる方に時々来て頂いている。又、入居者と一緒に折り紙やはり絵等、季節の変化を感じて頂けるよう壁飾りを変えている。	リビングの窓は大きく、風の流れも自然で気分よく過ごしている。職員の話し声が穏やかで利用者の表情も安心した様子である。ゆったりとしたソファは配置もよく、多くの時間を過ごせる安心感が持てる場所である。壁飾り作品は、利用者で職員の手作りで季節を感じる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを見て頂いたりベランダで職員も交えて皆で話や歌を歌ったりして過ごしている。横になり休みたい方には居室で過ごせる様に声掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人個室になっており、各自好きな物を置いたり、写真を貼ったりして頂いている。面会時にもゆっくり家族様とお話しが出来る居場所の工夫をしている。	各居室の据付机は、写真が置かれたり、書き物準備、作品飾り等、その人らしい生活をされている大切なコーナーである。洗面台もあり、清潔感と利便性が備わっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場、居室が分かりやすいように絵や文字表示で名称を書き、工夫している。浴室にはのれんをかけたり、廊下には手すりを付けて安全に歩行出来る様工夫している。		